

令和5年兵庫県鉱工業指数の概要について

1 令和5年県内鉱工業生産の動向 ～鉱工業生産指数 前年比 4.1%減～

令和5年（平均）の鉱工業生産指数は97.9で、前年比4.1%減（令和4年同0.1%増）と3年ぶりに低下した。

これを四半期別にみると、1～3月期が前期比3.6%減、4～6月期が同0.6%減、7～9月期が同3.0%減、10～12月期が同0.5%減となっている。

鉱工業出荷指数は、98.2で前年比4.0%減（令和4年1.0%減）と2年連続で低下した。

鉱工業在庫指数は、100.7で同3.0%増（同0.2%減）と4年ぶりに上昇した。

図1 鉱工業指数の推移（令和2年=100）

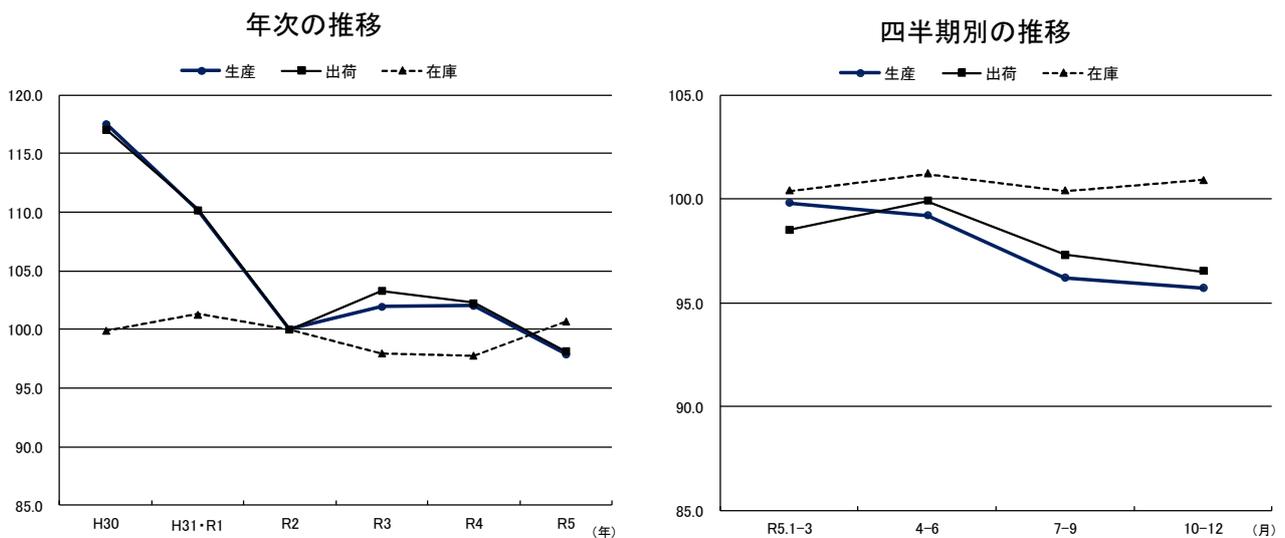


表1 鉱工業指数の動向

	(令和2年=100)									
	R4 平均	R5 平均	R4				R5			
			1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
生産指数	102.1	97.9	101.3	101.2	103.5	103.5	99.8	99.2	96.2	95.7
対前期(年)比増減(%)	0.1	▲ 4.1	1.2	▲ 0.1	2.3	0.0	▲ 3.6	▲ 0.6	▲ 3.0	▲ 0.5
出荷指数	102.3	98.2	101.7	101.4	103.0	103.9	98.5	99.9	97.3	96.5
対前期(年)比増減(%)	▲ 1.0	▲ 4.0	0.5	▲ 0.3	1.6	0.9	▲ 5.2	1.4	▲ 2.6	▲ 0.8
在庫指数	97.8	100.7	97.3	97.1	98.5	97.9	100.4	101.2	100.4	100.9
対前期(年)比増減(%)	▲ 0.2	3.0	▲ 2.9	▲ 0.2	1.4	▲ 0.6	2.6	0.8	▲ 0.8	0.5

(注)年平均は原指数、四半期平均は季節調整指数。

2 業種別鉱工業生産の動向

～17業種中 4業種上昇、13業種低下～

令和5年の業種別生産動向をみると、全17業種のうち電気機械工業、化学工業、業務用機械工業等の4業種で上昇したものの、電子部品・デバイス工業、生産用機械工業、金属製品工業等の13業種で低下した。

対前年比で見れば、電気機械工業は前年比22.1%増（寄与度1.63）、化学工業は同1.7%増（同0.25）、輸送機械工業は同1.1%増（同0.09）など、プラスに寄与した。

一方、生産用機械工業は同19.6%減（同▲1.67）、汎用機械工業は12.0%減（同▲1.27）、金属製品工業は14.6%減（同▲1.10）など、マイナスに寄与した。

表 2 業種分類別鉱工業生産指数の推移

(令和2年=100)

	R4 平均	R5 平均	増減率(%) R5/R4	R4				R5			
				1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
鉱工業	102.1	97.9	▲ 4.1	101.3	101.2	103.5	103.5	99.8	99.2	96.2	95.7
製造工業	102.1	97.9	▲ 4.1	101.3	101.2	103.5	103.5	99.8	99.2	96.2	95.7
鉄鋼業	110.7	105.8	▲ 4.4	111.9	112.9	110.1	107.9	107.7	106.6	105.9	102.8
非鉄金属工業	90.9	87.7	▲ 3.5	91.9	90.2	91.7	90.8	91.1	91.0	87.5	82.2
金属製品工業	105.9	90.4	▲ 14.6	95.2	113.6	108.3	107.7	97.7	92.4	87.4	84.5
汎用機械工業	96.9	85.3	▲ 12.0	91.0	89.1	102.2	105.9	86.0	95.5	75.0	77.3
生産用機械工業	123.5	99.3	▲ 19.6	119.1	113.8	128.6	133.3	115.3	105.3	88.9	86.3
業務用機械工業	100.3	101.8	▲ 1.5	108.6	93.4	102.8	94.6	98.8	111.8	97.2	100.2
電子部品・デバイス工業	95.3	74.0	▲ 22.4	105.8	100.0	91.8	84.3	76.9	71.6	72.8	75.4
電気機械工業	92.3	112.7	▲ 22.1	91.1	94.5	89.1	94.6	108.2	113.8	114.0	115.6
情報通信機械工業	79.2	75.0	▲ 5.3	80.6	74.9	88.7	72.2	76.7	73.9	73.8	74.0
輸送機械工業	104.6	105.7	▲ 1.1	100.3	105.4	108.2	105.8	102.0	99.8	107.4	112.4
窯業・土石製品工業	98.2	84.2	▲ 14.3	98.3	97.9	100.3	97.5	88.1	86.0	84.1	78.8
化学工業	104.8	106.6	▲ 1.7	106.3	107.2	102.5	104.1	105.5	105.7	108.6	106.4
プラスチック製品工業	100.0	93.8	▲ 6.2	103.3	99.8	101.1	96.5	95.3	94.5	93.9	92.3
パルプ・紙・紙加工品工業	103.6	99.7	▲ 3.8	102.3	104.8	104.3	103.3	101.1	99.1	99.4	99.9
食料品工業	98.5	96.5	▲ 2.0	99.0	98.8	98.1	99.0	97.4	97.2	96.4	95.6
その他の工業	100.9	97.6	▲ 3.3	100.8	102.8	100.2	100.4	98.1	99.1	97.5	95.9
鉱業	101.9	97.7	▲ 4.1	106.2	103.3	101.3	98.9	101.9	94.9	98.6	95.4

(注)年平均は原指数、四半期平均は季節調整指数。

表 3 業種分類別鉱工業生産指数の寄与度（対前年）の推移

	生産 ウェイト	年平均指数(原指数 令和2年=100)					増減率(%) R5/R4	寄与度(対前年)				R5 順位
		H31・R1	R2	R3	R4	R5		R2	R3	R4	R5	
鉱工業	10000.0	110.2	100.0	102.0	102.1	97.9	▲ 4.1	▲ 9.26	2.00	0.10	▲ 4.11	—
製造工業	9998.3	110.2	100.0	102.0	102.1	97.9	▲ 4.1	▲ 9.25	2.00	0.10	▲ 4.11	—
鉄鋼業	852.8	122.2	100.0	119.9	110.7	105.8	▲ 4.4	▲ 1.72	1.70	▲ 0.77	▲ 0.41	14
非鉄金属工業	231.7	136.9	100.0	96.5	90.9	87.7	▲ 3.5	▲ 0.78	▲ 0.08	▲ 0.13	▲ 0.07	6
金属製品工業	722.1	113.1	100.0	98.6	105.9	90.4	▲ 14.6	▲ 0.86	▲ 0.10	0.52	▲ 1.10	15
汎用機械工業	1121.8	96.4	100.0	89.0	96.9	85.3	▲ 12.0	0.37	▲ 1.23	0.87	▲ 1.27	16
生産用機械工業	703.8	114.2	100.0	118.4	123.5	99.3	▲ 19.6	▲ 0.91	1.29	0.35	▲ 1.67	17
業務用機械工業	213.4	102.5	100.0	98.8	100.3	101.8	▲ 1.5	▲ 0.05	▲ 0.03	0.03	0.03	4
電子部品・デバイス工業	193.6	102.1	100.0	111.1	95.3	74.0	▲ 22.4	▲ 0.04	0.21	▲ 0.30	▲ 0.40	13
電気機械工業	817.1	123.2	100.0	93.2	92.3	112.7	22.1	▲ 1.72	▲ 0.56	▲ 0.07	1.63	1
情報通信機械工業	304.2	116.2	100.0	90.5	79.2	75.0	▲ 5.3	▲ 0.45	▲ 0.29	▲ 0.34	▲ 0.13	8
輸送機械工業	862.8	121.4	100.0	99.8	104.6	105.7	▲ 1.1	▲ 1.68	▲ 0.02	0.41	0.09	3
窯業・土石製品工業	277.8	103.3	100.0	100.6	98.2	84.2	▲ 14.3	▲ 0.08	0.02	▲ 0.07	▲ 0.38	12
化学工業	1420.7	108.4	100.0	105.1	104.8	106.6	▲ 1.7	▲ 1.08	0.72	▲ 0.04	0.25	2
プラスチック製品工業	364.5	89.1	100.0	104.8	100.0	93.8	▲ 6.2	0.36	0.17	▲ 0.17	▲ 0.22	10
パルプ・紙・紙加工品工業	231.8	97.4	100.0	103.2	103.6	99.7	▲ 3.8	0.05	0.07	0.01	▲ 0.09	7
食料品工業	1098.4	99.8	100.0	99.7	98.5	96.5	▲ 2.0	0.02	▲ 0.03	▲ 0.13	▲ 0.22	10
その他の工業	581.8	113.6	100.0	102.0	100.9	97.6	▲ 3.3	▲ 0.72	0.12	▲ 0.06	▲ 0.19	9
鉱業	1.7	130.7	100.0	126.9	126.7	96.2	▲ 24.1	0.00	0.00	0.00	▲ 0.01	5

3 特殊分類別（財別）鉱工業生産の動向

～最終需要財 前年比 7.4%減、生産財 同 1.4%減～

令和5年の特殊分類別生産動向を前年比で見ると、家計や企業の消費する最終製品となる「最終需要財」は、対前年比 7.4%減（令和4年 3.6%増）と2年ぶりに低下し、中間製品として生産活動に再投入される「生産財」は、同 1.4%減（同2.8%減）と2年連続で低下した。

最終需要財の内訳を前年比で見ると、設備投資となる「資本財」は同12.1%減、建設投資に向けられる「建設財」は同7.7%減、家電製品などの「耐久消費財」は同22.8%減、日用品、雑貨などの「非耐久消費財」は同3.4%増となった。

表 4 特殊分類別鉱工業生産指数の推移

（令和2年=100）

	R4 平均	R5 平均	増減率(%) R5/R4	R4				R5			
				1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
鉱工業	102.1	97.9	▲ 4.1	101.3	101.2	103.5	103.5	99.8	99.2	96.2	95.7
最終需要財	103.4	95.8	▲ 7.4	101.7	100.8	105.5	106.8	99.5	98.1	91.7	92.6
投資財	102.4	91.2	▲ 10.9	99.8	97.0	105.4	108.7	96.6	95.4	84.3	85.6
資本財	104.0	91.4	▲ 12.1	103.9	96.1	106.9	111.0	96.8	96.8	82.9	84.7
建設財	98.2	90.6	▲ 7.7	90.5	101.2	101.4	100.5	95.2	93.7	88.6	85.7
消費財	105.2	103.7	▲ 1.4	104.8	107.0	105.8	104.1	103.9	103.1	104.1	103.8
耐久消費財	118.3	91.3	▲ 22.8	109.8	131.7	125.2	110.8	97.5	81.9	87.2	94.8
非耐久消費財	102.6	106.1	▲ 3.4	104.0	102.4	101.9	103.3	105.3	106.5	107.1	105.7
生産財	101.0	99.6	▲ 1.4	101.3	101.7	101.4	100.4	99.8	99.9	99.7	98.9
鉱工業用生産財	101.0	99.6	▲ 1.4	101.4	101.5	101.5	100.4	99.9	99.9	99.8	98.9
その他用生産財	100.2	99.1	▲ 1.1	97.7	103.4	98.8	101.1	96.5	100.8	99.1	100.0

（注）年平均は原指数、四半期平均は季節調整済指数。

表 5 特殊分類別鉱工業生産指数の寄与度（対前年）の推移

	生産 ウェイト	年平均指数(原指数 令和2年=100)					増減率(%) R5/R4	寄与度(対前年)			
		H31・R1	R2	R3	R4	R5		R2	R3	R4	R5
鉱工業	10000.0	110.2	100.0	102.0	102.1	97.9	▲ 4.1	▲ 9.26	2.00	0.10	▲ 4.11
最終需要財	4606.8	105.4	100.0	99.8	103.4	95.8	▲ 7.4	▲ 2.26	▲ 0.09	1.63	▲ 3.43
投資財	2897.9	105.4	100.0	98.0	102.4	91.2	▲ 10.9	▲ 1.42	▲ 0.58	1.25	▲ 3.18
資本財	2068.4	104.5	100.0	99.7	104.0	91.4	▲ 12.1	▲ 0.84	▲ 0.06	0.87	▲ 2.55
建設財	829.5	107.5	100.0	93.7	98.2	90.6	▲ 7.7	▲ 0.56	▲ 0.52	0.37	▲ 0.62
消費財	1708.9	105.4	100.0	102.8	105.2	103.7	▲ 1.4	▲ 0.84	0.48	0.40	▲ 0.25
耐久消費財	274.9	117.8	100.0	115.1	118.3	91.3	▲ 22.8	▲ 0.44	0.42	0.09	▲ 0.73
非耐久消費財	1434.0	103.0	100.0	100.4	102.6	106.1	▲ 3.4	▲ 0.39	0.06	0.31	0.49
生産財	5393.2	114.4	100.0	103.9	101.0	99.6	▲ 1.4	▲ 7.05	2.10	▲ 1.53	▲ 0.74
鉱工業用生産財	5180.7	114.6	100.0	104.0	101.0	99.6	▲ 1.4	▲ 6.86	2.07	▲ 1.52	▲ 0.71
その他用生産財	212.5	108.1	100.0	100.7	100.2	99.1	▲ 1.1	▲ 0.16	0.01	▲ 0.01	▲ 0.02

4 四半期別在庫循環の推移

在庫循環図は、縦軸に在庫の伸び、横軸に生産の伸びをとって各時点の状況をプロットした図である。在庫循環図では、景気動向の進展とともに、反時計回りにグラフが推移する傾向がある。一般的に右斜め上45°線より下にあるときは景気の回復期で、上にあるときは後退期と考えられる。

生産と在庫の推移をみると、令和2年第Ⅰ期に「在庫積み上がり局面」にあったが、2年第Ⅱ期から2期にわたり「在庫調整局面」となった。その後、2年第Ⅳ期から2期にわたり「意図せざる在庫減局面」を経て、3年第Ⅱ期から2期にわたり「在庫積み増し局面」、3年第Ⅳ期は「在庫積み上がり局面」、4年第Ⅰ期からは2期にわたり「在庫調整局面」となった。4年第Ⅲ期では「在庫積み増し局面」、4年第Ⅳ期では「意図せざる在庫減局面」、5年第Ⅰ期から2期にわたり「在庫積み上がり局面」となった後、5年第Ⅲ期から2期にわたり「在庫調整局面」へとシフトしている。

図 2 四半期別在庫循環の推移（令和2年第Ⅰ期～令和5年第Ⅳ期）

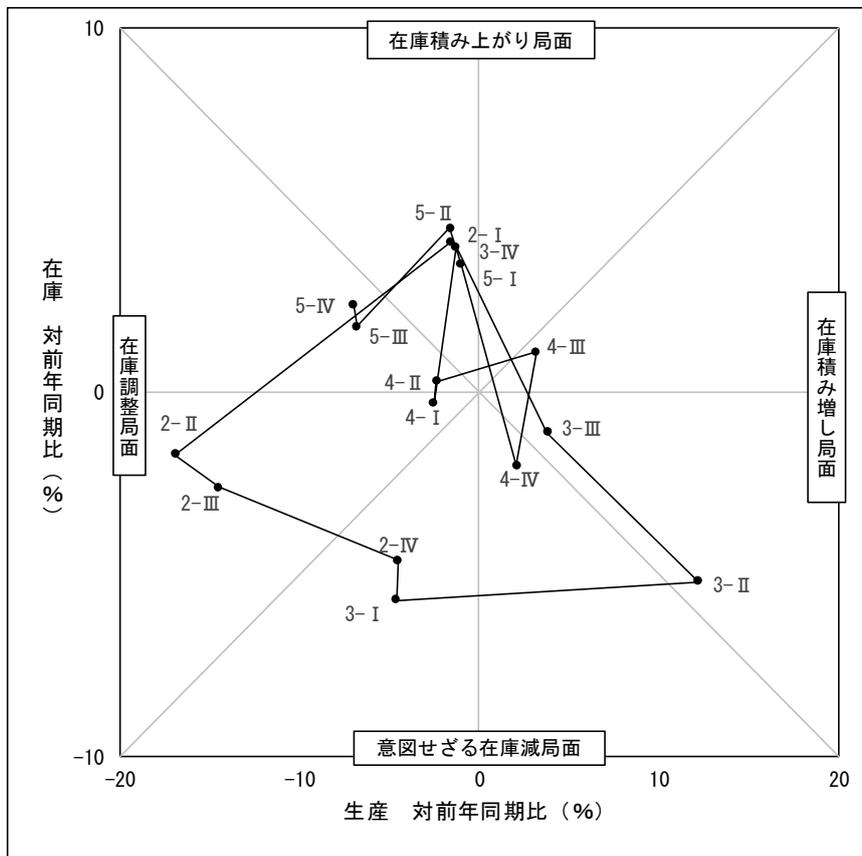


表 6 在庫循環の4局面

局面	内容
意図せざる在庫減局面 (景気拡大初期)	生産が停滞気味であるが、需要の回復により出荷が増加し始め、在庫が減少する。
在庫積み増し局面 (景気拡大本格化)	需要が供給を超過すると、生産、出荷とも好調に推移し、減少していた在庫も積み増しされる。
在庫積み上がり局面 (景気後退初期)	供給が需要を超過すると、生産に比べ出荷が減少し始め、在庫が積みあがる。
在庫調整局面 (景気後退本格化)	供給過剰により、適正水準を超えた在庫を減少させるため、生産を抑え在庫調整を図る。

※ 兵庫県鉱工業指数の統計表は、以下のURLでも提供していますので御利用ください。

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk11/hyogoiip/index.html>